

教宣 せぶん

『みずくさい』って言わないで！

スト通告してからのホームページへのアクセス件数が急増しています。私たちの組織の関係者だけではない、様々な「方面」の方々がアクセスしているのだと思います。3月に入り、私たちがすすめているすべてのたたかいが、佳境を迎え、正念場に入っています。それとともに、私たちの組織の関係者だけではない方々も、私たちの動向を「注目」していると言えます。もちろん、契約係従業員の地位確認を求めるたたかいは、スト権を行使し、労働者の最大の「闘争体制」を組んでいます。水も漏らさぬ闘争体制の確立が求められているところですし、3月26日を目前に控え、たたかいはよりデリケートさを増しています。このような局面を迎え、私たちのたたかいの相手は、私たちの手の内や考え方を知ろうとしてくるでしょう。むきあう相手が、いまなにを考えていて、どんなたたかいをすすめようとしているかを知ることが、そのたたかいを間違いなく有利にすすめられます。こんな時にまず求められることは、情報を支部闘争委員会に集中させる、組合員外秘を徹底的に貫くことです。

こういった闘争体制を組めば、当然、私たちのたたかいを支援してくれているOBの方々にも、些細な情報でも話せないという状況が続きます。特に第3次で転進された仲間の方々は、支部再建以来、苦楽を共にしてきた仲間であり、多大なカンパも行ってくれ、ハガキも書いてくれ、要請行動にも同行してくれ、本当にこのたたかいを側面から支援してくれています。しかし、現局面は徹底的に組合員外秘を貫かなければならない局面です。OBの方々のなかで、こういったたたかいを経験している方々や識者ほど、いま私たちが迎えている局面のデリケートさを理解してくれています。個人的にも、分裂前からの、分会再編前からの、同じ釜の飯を食べてきた仲間がいます。色んなことを相談してきた先輩がいます。しかし、いまの局面では組合員外秘を守っています。このOBの方も、局面の重要性を理解していて「情報」について尋ねてきません。局面のデリケートさ、重要性を、理解してくれていればいるほど、OBの方々は、「情報」について尋ねては来ないでしょうし、局面の大切さを話せば必ず理解してくれるはずです。それが「水も漏らさぬ」闘争体制です。「一糸乱れぬ」闘争体制です。こういった闘争体制を組んではじめて、対峙する相手に私たちの闘争体制が威力を発揮するのだと思います。

12日よりスト権を行使したたたかいは始まっています。整斉とたたかいがすすめられていると報告があります。私たちのすべてのたたかいが、デリケートな局面を迎えている、正念場に入っているいま、何が大切なのかをあらためて考え、慎重に、勇気をもって行動していきましょう。